



さくらの学び舎



桜学園つくば市立さくら小学校 学校だより 第2号 令和8年6月12日

ともに創る学校を目指して

【保護者による学校支援組織づくりスタート】

6月10日(水)、本校にて「第1回学校支援組織発足準備会」を開催させていただき、お忙しい中、全ての学年から満遍なく計19名の方に参加いただきました。昨年度、開校準備委員会にて行われた保護者アンケートの結果確認や学校が求める支援について共有し、学校支援の在り方について話し合いました。

以下に報告させていただきます。

1 目指す学校づくり

校長より、グランドデザイン(本校HP掲載)をもとに学校経営方針について説明をしました。『自分の「やってみたい」が、みんなの幸せにつながる学校づくり』を念頭に、子どもたちの学びの充実・支援して下さる保護者や地域の皆様のやりがいづくり・教職員の働き方改革を推進できる学校を目指していきます。

2 昨年度の開校準備委員会アンケート結果から

元開校準備委員の方から、改めて保護者アンケートの結果報告をいただきました。アンケートでは、これまでのPTAのような組織形態ではなく、より参加しやすく柔軟な新しい仕組みを求める声が多く寄せられました一方、「学校と保護者をつなぐ窓口は必要ではないか」「活動を調整する本部のような役割も必要ではないか」といった意見もありました。

3 学校がお願いしたい支援

教務主任より、学校が保護者や地域の皆様をお願いしたい支援例について、大きく二つに分けて提案しました。

(1) さくらパートナー ～授業づくりや、子どもたちの学びを支える活動～

【活動例】家庭科のミシン指導補助・調理実習の支援・算数のそろばん指導等、仕事や経験を生かしたゲストティーチャー。保護者だけでなく、祖父母や地域の方々の経験や技能も「人材バンク」として活用

(2) さくらボランティア ～心豊かに安心して生活するための支援や環境整備の活動～

【活動例】読み聞かせ・給食補助・休み時間の見守り・清掃活動補助・除草作業等の日常的な支援

★いずれの活動も「可能な人が、可能な時に、可能な範囲で」を基本としており、一人1回以上等のノルマ等は考えておりません。

4 協議の内容

【出されたご意見】

- ・学校が困っていることや支援してほしいことを具体的に示してほしい
- ・支援組織は、学校の困り感に寄り添う存在であることが大切
- ・必要な活動ごとに参加者を募る仕組みが望ましい
- ・学校だけでなく地域も巻き込んだ支援体制をつくりたい
- ・保護者全員がサポーターとなり、様々な呼びかけに応じて可能な時に可能な範囲で参加できる体制づくり(義務・ノルマなし)
- ・「さくらパートナー」や「さくらボランティア」の取りまとめや、活動を調整する役割の必要性
- ・給食補助や清掃活動など継続的な活動のシフト調整や連絡を行う組織必要性
- ・予算の確保と運用の在り方 等

【確認事項】

- ・従来のPTA組織の形態ではなく、可能な人が、可能な時に、可能な範囲で、無理なく関わる形態(義務・ノルマなし)で進めていくこと、皆様にご確認いただきました。

5 今後の課題

今後、検討していく課題として、中核となる組織形態をどうするか(名称含む)、防犯面への配慮をどうするか、どこまで地域に協力を広げるか、保護者や地域の方が安心して参加できる仕組みづくり、「パートナー」と「ボランティア」の違いを分かりやすくする等が挙げられました。

6 次回に向けて

学校だけでなく保護者や地域の皆様とともに共に育てる「共育」を目指す学校づくりに向け、まずは、少しずつ小さく始め、成果や課題を踏まえながら一緒に歩みを進めていきたいと考えています。

保護者の皆様、お一人おひとりの「やってみたい」が、子どもたちの学びや成長につながる仕組みを目指し、引き続き準備を進めてまいります。

第2回は、7月下旬を予定しています。後日、別途ご案内をさせていただきますので、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。